亀中だより

No.24　令和4年10月3日　文責：岡田

For The Students！

「日本には国枝がいるじゃないか！」

写真：Tennis 365 net より

9月11日、テニスの全米オープンで車イス部門の男子シングルス決勝が行われました。第１シードの国枝慎吾選手は第２シードのＡ・ヒューエット選手（イギリス）に 6-7、1-6 のストレートで敗れ「年間グランドスラム」達成は残念ながらなりませんでした。

国枝選手が主要な大会を勝ちまくっていた2007年から2010年のころは、ウィンブルドンでの大会が開催されていなかったため、全豪、全仏、全米の3大会を制するとグランドスラムとしていたようです。そのころの国枝選手はまさに負け知らず。全米オープンが開催されなかった2008年こそ3大会制覇とはなりませんでしたが、2007年、2009年、2010年、2014年、2015年は3大会をすべて制し、当時のグランドスラムを成し遂げています。ウィンブルドン大会が開催されるようになり、今年、全豪、全仏、ウィンブルドンを優勝してきた国枝選手は、この全米で勝てば、初の同一年内での4大大会制覇、つまり「年間グランドスラム」を達成するところだったのです。

ロジャー　フェデラー選手

国枝　慎吾選手

見出しの「日本には国枝がいるじゃないか！」は、国枝選手を語るエピソードとして有名な話です。錦織圭選手などもまだ台頭していない2007年、日本のある記者が4大大会で通算 20 勝しているロジャー・フェデラー選手（スイス）に、「なぜ日本のテニス界から世界的な選手が出ないのか」と質問しました。この言葉はその時にフェデラー選手が切り返した言葉です。テニス界の第一人者が国枝選手の偉大さについて語るエピソードであるのは間違いないのですが、どこか皮肉が込められているようにも感じるのは私だけでしょうか。日本という社会が、まだまだ障がい者を理解していないのではないか、リスペクトできていないのではないか、そんな一端が見えるような気がします。フェデラー選手の発言から15年…。日本はどう変わっているのでしょうか。今学期、生徒のみなさんは多くのことを人権学習から学ぶことでしょう。そんなみなさんの新しい感覚が、フェデラー選手のようにしっかりとものの本質を見極め、言葉や行動にできる人となっていってくれることを期待しています。